

Ode to the Hamburger

ハンバーガーの讃辞

作詞作曲 マイク・バス



お気に入りのハンバーガーショップに行くつもり、
今週の金曜日にしよう。
一回でできるだけたくさんのポテトフライを口に詰め込むぞ、
店員さんに頼んで、俺用に作ってもらおう。
ここで食べるか、持ち帰り、どっちでもいい。
ただ、コーラも忘れないで。
それとパイもあったら、はい、よろしくね。
少しくらい虫歯になっても我慢できるよ。
朝ご飯のためにつれて行ってくれ、昼ご飯のためにもつれて行ってくれ、何曜日でもいいから
つれて行ってくれ。
月曜日から日曜日、ハンバーガーをいくつ食べるかに制限はつけない。

俺の言うことを聞いて、お願い。
大きくても小さくても、少なくても多くても、
俺はいつの季節でもハンバーガーを食べることができるんだ。

よく両親にしかられる。俺の凝り性のせいで怪獣になっちゃうぞと言われる。
もし両親が俺のベッドシートの間にしまいこんだ「怪獣バーガー」のことを知っていたら、
どう思うかな。
目覚まし時計の裏でも、ゴミ箱の中でも、机の下にある俺の足にも
CD プレイヤーの中の俺の普通の CD の代わりに入っているハンバーガーを見つけてしまうよ。

もし僕たちみんなにハンバーガーがあれば、
今日から永遠に
きっと平和になるでしょう、
でなければ、少なくとも油はたくさんあるでしょう。

では、みんなで祝福しよう！
今までのメニューの中で、最高のでき。
「いいぞ！いいぞ！」ハンバーガーよ、
君は立派な作品だ。
はい、どうぞ。このティッシュを使って！